

昔話はないけれど、ハマディ(我々の国にいた勇敢な男たち)たちの時代の史実がある。でもすごく短いものだ。

イコナの町で生まれたら、みんな大きくなるとこう尋ねた。

「あの山は何の役にたつの？」。

そこでこう言われる。

「あの山かい、あれは町の城砦なんだ」。

そして、マダガスカル人たちが我々を侵略しようとしていた時期があったという話を聞く。町の勇敢な人々はそれを受け入れなかった。彼らがモロニに着いて、人々を[彼らの船に]連れて行き始めた時、彼らは言われた。

「もし本当にお前たちが強いのなら、あの丘の後ろに行ってみろ」。

その後には戦いが始まった。戦いの間、町の勇敢な男達(戦士)は、町の女と子供を(守るために)丘の峠の上の、ムドゥナリキと呼ばれる場所に連れて行くことにした。そこは、幾つかの橋が架かっていて、断崖になっており、頂上と海の間は600mほどあった。そして女たちは、マダガスカル人に犯されるよりは、海に身を投げる方を選んだのだ。

戦いが過ぎた後、頂上の後ろにヌドハムボダという場所があった。そこには蔓は生えており、100mほどの「橋」になっていた。それ以外には他の道がなかったので、彼ら[マダガスカル人]は、その蔓を伝って、丘の反対端から通った。それは、女たちを連れ戻して奴隷にするためだった。

[コモロの]人々が反対側の戦闘にいた間に、彼ら[マダガスカル人]は、女たちを連れ戻すために丘の後ろを歩いていった。そこで、女たちは衣服を脱ぎ、それで目隠しをした。それから彼女たちは、マダガスカル人に犯されないよう、断崖の上から身を投げ、皆そこで死んでしまった。

この話について知ることが出来るのはほんの僅かだ。彼女たちはムドゥナリキまで行って、人質にならないように身を投げたのだった。これが、知ることの出来たほんの少しの話だ。それも人づてに聞いたのだけれど、それは我々が目撃していないからなのだ。